

第2章 流域及び河川の自然環境

2 - 1 流域の自然環境

自然公園に囲まれた豊かな自然環境

松浦川流域は、佐賀県北西部に位置し、「黒髪山県立自然公園」「八幡岳県立自然公園」「天山県立自然公園」に囲まれ、アカマツ林や常緑針葉樹植林が広く分布しており、田園風景と調和した豊かな自然環境を有している。

黒髪山は全国的に有名な植物の山として知られ、クロカミラン(絶滅危惧種)・ヤツガシラ・ヒレフリカラムツ(絶滅危惧種)・クロカミシライトソウなどの全国的にも珍しい固有種が多く自生している。

また黒髪山は、シダ植物が豊富で、ヒノキシダ・コガネシダなど約70種のシダ植物が自生している。特に、カネコシダは黒髪山が原産地であり、国指定天然記念物に指定されている。

松浦川河口は、玄界灘に臨む福岡、佐賀、長崎三県の海岸線を区域にした玄海国定公園を有しており、白砂青松の海岸線が続いている。

虹の松原は、日本三大松原のひとつで国指定特別景勝地に指定されている。主な樹種はクロマツである。

クロマツ林から海岸までは海浜植物群落の宝庫であり、ハマエンドウ・ハマダイコン・ハマニガナ・ハマボウフウ・ハマゴウ・ハマヒルガオといった「浜」がつく砂丘植物が砂浜を覆う。

玄海国定公園

玄海国定公園
玄界灘
虹の松原

【ハマヒルガオ】
(出典：武雄河川事務所)

【虹の松原】
(出典：唐津百景)

天山県立自然公園

【天山】
(出典：佐賀県 HP)

八幡岳県立自然公園

【八幡岳】
(出典：佐賀県 HP)

黒髪山県立自然公園

【黒髪山】
(出典：武雄河川事務所)

【カネコシダ】
(出典：レッドデータブック佐賀, 普及版)

2 - 2 河川及びその周辺の自然環境

(1) 全国的に絶滅の危機にある生物が多く生息する川

環境庁や佐賀県では絶滅の危機に瀕している生物をレッドデータブック・レッドリストとしてとりまとめ、保護のための基礎資料としている。

松浦川水系には、水の澄んだ清流に生息するスナヤツメ、アリアケギバチ、オヤニラミ、メダカ、など4種の魚類の生息が確認されているほか、底生生物4種、両生類2種、ほ乳類1種、陸上昆虫6種、鳥類15種、植物22種、など多くの絶滅危惧種が確認されている。

【スナヤツメ】(ヤツメ目ヤツメ科)



- ・環境庁：絶滅危惧 類
- ・佐賀県：準絶滅危惧種

九州南部を除く全国に広く分布する。幼生、成魚ともに、昼間は、河川中流域や細流などの流れの緩やかな、湧き水のある砂泥底に潜っている。夜行性。産卵は4月で平瀬や淵尻の礫底にすり鉢状のくぼみを作っておこなわれる。餌は泥に含まれる有機物や微小藻類である。

(出典：レッドデータブックさが)

(写真：日本の淡水魚,山と渓谷社)

【アリアケギバチ】(マズ目ギギ科)



- ・環境庁：準絶滅危惧 類
- ・佐賀県：絶滅危惧 類種

水のきれいな早瀬から早瀬尻の大石の下などに潜み、夜間や雨後の濁りに乗じて水生昆虫や甲殻類、小魚などを捕食する。産卵期は6~8月で、石の下面や植物帯の根本などの暗がりに2.3mmの寒天質で包まれた黄色の卵をかためて産みつける。卵は3~4日でふ化する。

(出典：レッドデータブックさが)

(写真：くまもと自然大百科)

【オヤニラミ】(双目双科)



- ・環境庁：準絶滅危惧 類
- ・佐賀県：絶滅危惧 類種

河川中流域の水のきれいな、緩やかな流れの石の間や岸辺の植物の根元に単独で定位することが多い。節足動物や小魚など動くものしか食べない。産卵期は4月中旬から夏にかけてで、ヨシなどの植物の沈水部分に卵を定着させ、雄が保護する。

(出典：レッドデータブックさが)

(写真：川の生物図典,山海堂)

【メダカ】(ダツ目ダ科)



- ・環境庁：絶滅危惧 類
- ・佐賀県：準絶滅危惧種

水田脇の小溝や浅瀬、水深のあるクリークでは岸辺の抽水植物帯に群れて生活する止水生の魚である。卵には長い粘着糸があり、メスは受精してもしばらくは腹部に卵を付着したまま泳ぎ回り、水草などにばらばらに卵を付着させていく。

(出典：レッドデータブックさが)

(写真：日本の淡水魚,山と渓谷社)

(2) 変化に富んだ河川環境

松浦川の河道は蛇行が激しく、瀬と淵が連続しており、変化に富んだ地形が成す河川環境を有する。

【巖木川 10k0 付近の蛇行状況】



(出典：武雄河川事務所)

【徳須恵川 12k0 付近の蛇行状況】



(出典：武雄河川事務所)

2 - 2 - 1 河川の環境特性

松浦川流域を河口域（干潮区間）、中下流域、中上流域、上流域、徳須恵川流域、巖木川流域に区分し、各区分の河川の環境特性について示す。

（1）松浦川河口域（干潮区間）の環境【河口～松浦大堰（3k000 付近）】

松浦川の河口域は全域が汽水域で広大な水面を有し、カモ類、カモメ類の休息の場となっている。干潮時には広大な砂質干潟が出現し、ハクセンシオマネキやマゴコロガイ等の希少な生物が生息している。

高水敷は狭く、河道内の樹木はほとんど存在しないが、水際部にはシオクグやウラギク等の塩生植物が小面積ながら存在する。

【松浦川河口部】



（出典：武雄河川事務所）

【広大な砂質干潟】



（出典：武雄河川事務所）

【ハクセンシオマネキ】（十脚目サガニ科）



- ・環境庁：準絶滅危惧
- ・佐賀県：準絶滅危惧種

生息域は、内湾の奥や河口域の泥質干潟であり、高潮線付近の大潮でないと冠水しないような場所を好む。雄の鉗脚は片方が大きく、雌は両方とも小さい、甲幅 35mm 前後の小型のカニである。

（出典：レッドデータブックさが）
（写真：武雄河川事務所）

【ウラギク】（柞科）



海岸や河口などの、潮の干満によってたえず塩水をかぶるような湿地に群生する越年草。高さ 30～60cm になる。葉は細く、やや厚くてつやがある。頭花は径 2cm ほどで、茎の上部で枝を分けて円錐状に多数つく。

（出典：日本の野草,山と溪谷社）

(2) 松浦川中下流域【松浦大堰～19k0 付近】

松浦大堰から 11k0 付近間の湛水域は、高水敷は狭く、堤防法面には外来種であるセイタカアワダチソウ等が優先し、河道内樹木はわずかに存在するのみである。また、水際にはツルヨシやヤナギタデ等の湿性植物群落も存在する。

12k2 伊岐佐川との合流点付近には、水系最大の砂礫河原が存在し、コチドリやイカルチドリの休息の場となっている。また巖木川合流部より下流(11k6～13k2)は、松浦川水系で貴重なアユの産卵場が確認されている。

河岸は部分的に山付きの樹木群が存在し、河道内にはところどころでツルヨシ群落が中洲や寄洲を発達させつつあるが、区間内の河岸のほとんどがコンクリート護岸である。

【松浦川荒瀬橋付近(11k 付近)】



(出典：武雄河川事務所)

【松浦川水系最大の砂礫河原】



(出典：武雄河川事務所)

【イカルチドリ】(升目升目科)



主として栗石と砂利の多い河原で繁殖し、特に中流域の氾濫原の礫の多いところを好む。砂や土の多い埋め立て地では繁殖しない。全長は約 21cm、翼を広げた大きさは約 41cm。ムクドリくらいの大きさで、主に昆虫などの動物質を餌とする。

(出典：川の生物図典,山海堂)

【アユ】(竹目ア科)



仔魚は海に降った当初は沿岸域に広く分布し、昼は低層に、夜は表層に生息する。春になり遡上期が近づくと岸寄りに分布する。河川に遡上したアユは、中流から上流域の大石や岩盤のある瀬に縄張りを形成して定着する。縄張りは平瀬や早瀬および淵の一部に形成する。

(出典：川の生物図典,山海堂)

(3) 松浦川中上流域の環境【松浦川 19k0~31k4 付近】

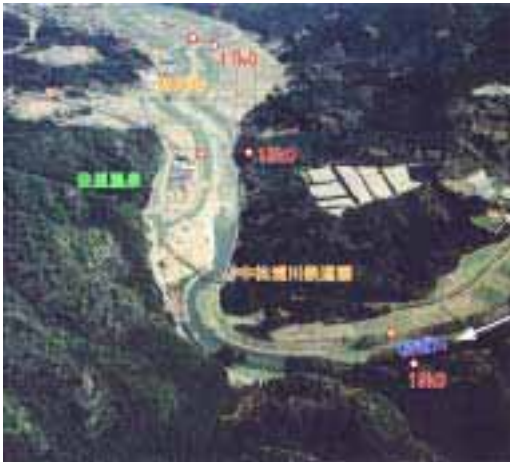
周辺の低山に囲まれたやや開けた平地であり、そのほとんどが農地として利用されている。河川幅はやや狭く、河床に岩盤が露出する区間があり、早瀬や平瀬が出現する。

メダケやマダケ等の河畔林が多く見られ、山付きの樹木群も点在するが、高水敷はほとんど存在せず、また、河道内にはコンクリート護岸が随所に見られる。

山間部では、ヤマセミやカワセミが見られる。

桃の川地区（親水公園）ではゲンジボタルが確認されており、良好な河川環境を有している。この地区では、ホタル観察会や水生生物調査等の日常の利用が盛んであり、ボランティアによる清掃活動もおこなわれている。

【松浦川中松浦川鉄道橋付近（19k 付近）】



(出典：武雄河川事務所)

【桃の川親水公園（28k6 付近）】



(出典：武雄河川事務所)

【ヤマセミ】（ブゾウ目カゲシ科）



・佐賀県：絶滅危惧 類

山地の渓流や湖沼に生息し、巣は土質の崖に横穴を掘ってつくる。岸から 1km 以上離れた崖もよく利用する。川魚、カエル、サワガニ、昆虫などを捕食する。

(写真：原色日本野鳥生態図鑑,保育社)

【ゲンジボタル】（ブゾウ目カゲシ科）



・佐賀県：絶滅危惧 類

幼虫の生息場所は流水中、成虫はその岸辺などである。成虫は昼間は樹木や草などに潜んでいるが、日没後にゆっくりと飛びながら発行する。幼虫は陸に上がって、安定した良い環境を選んだ後、土に潜り、部屋を作りふ化する。

(出典：川の生物図典,山海堂)

(写真：原色日本甲虫図鑑,保育社)

(4) 松浦川上流域の環境【指定区間】

松浦川上流域は、3箇所の県立自然公園に指定されており、広範囲にわたって豊かな自然環境を形成している。上流域では、クロカミシライトソウなどの貴重種やカネコシダなど天然記念物が存在する。

【黒髪山（県立自然公園）】



(出典：武雄河川事務所)

【八幡岳（県立自然公園）】



(出典：佐賀県 HP)

【カネコシダ】（ウラボシ科）



- ・環境庁：絶滅危惧 B類
- ・佐賀県：絶滅危惧 類種

九州の山地に、ウラボシ科と混じって生えている。葉の裏が白くなく、小葉が尖っているのでウラボシ科と区別できる。明治37年頃、黒髪山で発見されたシダで発見した人の名を付けられている。昭和2年に、生えているこの場所に限り、天然記念物に指定された。

(出典：レッドデータブックさが普及版)

【クロカミシライトソウ】（ゴケ科）



- ・環境庁：絶滅危惧 A類
- ・佐賀県：絶滅危惧 類種

全国では佐賀県だけであって、岩の多い林の中や湿った岩の上に生えている。白くて細い花びらをもっている。名の由来は、発見された黒髪山にちなむ。

(出典：レッドデータブックさが普及版)

(5) 徳須恵川流域の環境【0k0 ~ 14k4 付近】

下流 6k0 付近までは松浦大堰の湛水区間であり、ほぼ全区間において築堤及び低水護岸が整備されている。

松浦川との合流点に残る旧川地区は、松浦大堰の湛水影響を受け、ヨシやマコモ、メダケ等からなる止水性の湿地となっている。またメダケ林はサギ類の集団ねぐらとなっている。

徳須恵川の中上流域は、低山に囲まれた区間で、河道内はツルヨシが繁茂する。

山付きの樹木群や河岸にはメダケ林が発達し、魚食性のカワセミやヤマセミが多く確認されている。

【松浦川合流点旧川地区付近】



(出典 : 武雄河川事務所)

【徳須恵川 12k0 付近】



(出典 : 武雄河川事務所)

【カワセミ】(フツウ目カワセミ科)



標高 900m くらいまでの河川・湖沼・小川・用水などの水辺に生息し、水辺の土の崖に巣穴を掘る。川魚を主として捕食するが、ザリガニ、エビ、カエルなども食べる。

(写真 : 日本の野鳥,山と溪谷社)
(出典 : 原色日本野鳥生態図鑑,保育社)

(6) 厳木川流域の環境【0k0～14k6 付近】

取水堰が多く存在するが、オヤニラミやアリアケギバチが生息する良好な溪流環境が形成されている。また、河岸の大半はツルヨシ群落で、メダケ・マダケが点在しており、山付きの樹木群も見られる。

【厳木川横枕堰付近】



(出典 : 武雄河川事務所)

【厳木川 10k0 付近】



(出典 : 武雄河川事務所)

【オヤニラミ】(双 目 双 科)



- ・環境庁：準絶滅危惧
- ・佐賀県：絶滅危惧 類種

河川中流域の水のきれいな、緩やかな流れの石の間や岸辺の植物の根元に単独で定位することが多い。節足動物や小魚など動くものしか食べない。産卵期は4月中旬から夏にかけてで、ヨシなどの植物の沈水部分に卵を定着させ、雄が保護する。

(出典 : レッドデータブックさが)
(写真 : 川の生物図典,山海堂)

【アリアケギバチ】(双 目 ギギ 科)



- ・環境庁：準絶滅危惧
- ・佐賀県：絶滅危惧 類種

水のきれいな早瀬から早瀬尻の大石の下などに潜み、夜間や雨後の濁りに乗じて水生昆虫や甲殻類、小魚などを捕食する。産卵期は6～8月で、石の下面や植物帯の根本などの暗がりに2.3mmの寒天質で包まれた黄色の卵をかためて産みつける。卵は3～4日でふ化する。

(出典 : レッドデータブックさが)
(写真 : くまもと自然大百科)

2 - 2 - 2 松浦川における特定種

(1) 注目すべき生物

松浦川水系の生物の特徴を適切に把握するため、以下の観点より、整理対象の種を「注目種」として選定した。

希少性から重要と考えられる生物種【環境庁 RDB, 佐賀県 RDB】

良好な自然環境を代表していると考えられる種【自然環境保全基礎調査】

松浦川水系生態系の特徴を表すと考えられる種【生態系】

河川水辺の国勢調査およびその他の生物調査から、松浦川水系生育・生息が確認された種を対象に選定した結果、魚類 10 種、底生動物 15 種、両生類 2 種、ほ乳類 1 種、陸上昆虫類 13 種、鳥類 20 種、植物 26 種の合計 87 種を抽出した。

表 2- 1 注目すべき生物の選定基準

文献	凡例等
環境庁RDB 『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律』の国内希少野生動植物種及び『レッドリスト』（環境庁）の記載種	「絶滅」 我が国ではすでに絶滅したと考えられる種 「野生絶滅」 飼育・栽培下でのみ存続している種 「絶滅危惧 A類」 ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い 「絶滅危惧 B類」 Aほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い 「絶滅危惧 類」 絶滅の危険が増大している種 「準絶滅危惧」 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種 「情報不足」 評価するだけの情報が不足している種 「絶滅のおそれのある地域個体群」 地域的に孤立しており、地域レベルでの絶滅のおそれが高い個体群
佐賀県RDB 『佐賀県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックさが』（2001, 佐賀県希少野生生物調査検討会）	「絶滅種」 県内ではすでに絶滅したと考えられる種 「絶滅危惧 類種」 絶滅の危機に瀕している種 「絶滅危惧 類種」 絶滅の危険が増大している種 「準絶滅危惧種」 存続基盤が脆弱な種 「情報不足種」 評価するだけの情報が不足している種 「絶滅のおそれのある地域個体群」 地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの
第1回自然環境保全基礎調査 野生生物選定一覧表（都道府県別のうち佐賀県）（1981, 環境庁自然保護局）	A～ 全国レベル保護対象 B～ 地方レベル C～ 都道府県レベル
干潟RDB 『WWF Japan Science Report -日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状-』（1996, (財)世界自然保護基金日本委員会）	「絶滅」 野生状態ではどこにも見あたらなくなった種 「絶滅寸前」 人為の影響の如何に関わらず、個体数が異常に減少し、放置すればやがて絶滅すると推定される種 「危険」 絶滅にむけて進行していると見なされる種 「希少」 特に絶滅を危惧されることはないが、もともと個体数が非常に少ない種 「状況不明」 最近の生息の状況が乏しい種

表 2- 2 注目すべき生物の選定結果 (1 / 2)

生物分類	種名	主たる選定理由	種の選定根拠									
			希少性			良好な環境	生態系の特徴を表す種					
			環境庁 RDB 2000	佐賀県 RDB 2000	干潟 RDB 1996	自然環境 保全調査 1981	上位性	典型性	特殊性	移動性		
魚類 (10種)	アリアケギバチ	希少	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類								
	オヤニラミ	希少	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類		B						
	スナヤツメ	希少	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧						○		
	メダカ	希少	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧								
	アユ	生態										○
	オイカワ	生態							○			
	オオヨシノボリ	生態								○		○
	カワムツB型	生態								○		
	トウヨシノボリ	生態										○
	マハゼ	生態							○			
底生動物 (15種)	アリアケモドキ	希少			希少							
	ウネナシトマヤガイ	希少			危険							
	オチバガイ	希少			危険							
	コシダカヒメモノアラガイ	希少	情報不足									
	ソトオリガイ	希少			危険							
	トンガリササノハ	希少	準絶滅危惧									
	ハザクラガイ	希少			危険							
	ハマグリ	希少			危険							
	マキトラノオガニ	希少			希少							
	マゴコロガイ	希少			絶滅寸前							
	マルタニシ	希少	準絶滅危惧									
	ミズゴマツボ	希少			絶滅寸前							
	モノアラガイ	希少	準絶滅危惧									
ユウシオガイ	希少			危険								
カワニナ	生態									○		
両生類 (2種)	カジカガエル	希少		準絶滅危惧		B・C			○			
	カスミサンショウウオ	希少		準絶滅危惧		C						○
ほ乳類	カヤネズミ	生態							○			
陸上昆虫 (13種)	アオモンギンセダカモクメ	希少		情報不足								
	ベニイトンボ	希少	絶滅危惧Ⅱ類									
	ベニツチカメムシ	希少		準絶滅危惧								
	コオイムシ	希少	準絶滅危惧									
	ホンサナエ	希少		準絶滅危惧								
	ムスジイトンボ	希少	準絶滅危惧	準絶滅危惧								
	ゲンジボタル	生態				B					○	
	コオニヤンマ	生態							○			
	コヤマトンボ	生態							○			
	ニシカワトンボ	生態							○			
	ハグロトンボ	生態							○			
	ミヤマカワトンボ	生態							○			
	ヤマサナエ	生態							○			
鳥類 (20種)	アオバズク	希少		準絶滅危惧								
	オオジシギ	希少	準絶滅危惧			A						
	オオダカ	希少	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類								
	オシドリ	希少	準絶滅危惧	準絶滅危惧								
	ササゴイ	希少		絶滅危惧Ⅰ類								
	サシバ	希少		絶滅危惧Ⅱ類								
	サンショウクイ	希少	絶滅危惧Ⅱ類									
	チュウサギ	希少	準絶滅危惧									
	ツミ	希少		情報不足								
	ハイタカ	希少	準絶滅危惧						○			
	ハチクマ	希少	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類								
	ハヤブサ	希少	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅰ類								
	フクロウ	希少		準絶滅危惧								
	ミサゴ	希少	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅰ類					○			
	ヤマセミ	希少		絶滅危惧Ⅰ類			B・C					
	イカルチドリ	生態									○	
	カワウ	生態								○		
	カワガラス	生態								○		
	カワセミ	生態					C			○		
	コチドリ	生態									○	

表 2- 3 注目すべき生物の選定結果 (2 / 2)

生物分類	種名	主たる選定理由	種の選定根拠									
			希少性			良好な環境	生態系の特徴を表す種					
			環境庁 RDB 2000	佐賀県 RDB 2000	干潟 RDB 1996	自然環境 保全調査 1981	上位性	典型性	特殊性	移動性		
植物 (26種)	アヤメ	希少		絶滅								
	イヌアワ	希少		絶滅危惧 I 類								
	イヌドクサ	希少		絶滅危惧 I 類								
	ウラギク	希少	絶滅危惧 II 類									
	エビネ	希少	絶滅危惧 II 類	絶滅危惧 II 類								
	カワヂシャ	希少	準絶滅危惧									
	コガマ	希少		準絶滅危惧								
	サガミトリゲモ	希少	絶滅危惧 IB 類									
	サヤヌカグサ	希少		絶滅危惧 II 類								
	シナミズニラ	希少	絶滅危惧 IB 類	絶滅危惧 I 類								
	シュンラン	希少		準絶滅危惧								
	スジヒトツバ	希少		準絶滅危惧								
	センニンモ	希少		準絶滅危惧								
	ツクシテンツキ	希少	絶滅危惧 II 類									
	ハママツナ	希少		準絶滅危惧							○	
	ヒメキセウタ	希少	絶滅危惧 IB 類									
	フサモ	希少		準絶滅危惧								
	マツナ	希少		絶滅危惧 I 類								
	ミズマツバ	希少	絶滅危惧 II 類									
	ミゾコウジュ	希少	準絶滅危惧	準絶滅危惧								
	ヤマホオズキ	希少		絶滅危惧 I 類								
	ワレモコウ	希少		準絶滅危惧								
	オオタチヤナギ	生態								○		
	オギ	生態								○		
	ツルヨシ	生態								○		
	メダケ	生態								○		

(2) 生態系の観点から注目すべき生物

前項「注目種」より、特に注目すべき種として、「上位性・典型性・特殊性・移動性」の4つの観点より選定した。

食物連鎖の頂点に位置する種およびその生息環境【上位性】

当該河川において典型的と考えられる生息生育環境および生物群集【典型性】

典型性では把握しにくい特殊な生息・生育環境およびそこに生育・生息する生物群集【特殊性】

広範囲にわたって移動する動物およびその経路【移動性】

表 2-4 生態系の観点から注目すべき生物の抽出

環境区分		生態系注目種					底生生物
		植物	鳥類	両・爬・哺乳	陸上昆虫類	魚介類	
河口域	水域 (汽水)	シオクグ(特) ハマツナ(特) マツナ ウラギク	カワウ(典) ミサゴ(上) ハヤブサ	-	-	マハゼ(典)	-
	干潟	-	ミサゴ(上) ハヤブサ	-	-	マハゼ(典)	ハクセンシオマネキ マキノトラノオガニ マゴコロガイ
	草地	ミソコウジュ イヌドグサ ツクシテンツキ	ミサゴ(上) ハヤブサ	-	-	-	-
松浦川 及び 徳須 恵川 下 流域	水域 (湛水)	ツルヨシ(典)	カワウ(典) ミサゴ(上)	-	ゲンジボタル(特) ミヤマカワトンボ(典) ニシカワトンボ(典)	アユ(移) オオヨシノボリ(移) トウヨシノボリ(移)	-
	草地	オギ(典)	-	カヤネズミ(典) カジカガエル(典) カスミサンショウウオ (特)	-	-	-
	樹林 (河畔林・竹林)	オオタチヤナギ(典) メダケ(典)	-	-	-	-	-
松浦川 及び 徳須 恵川 中 流域	水域 (瀬・淵)	ツルヨシ(典)	カワセミ(典) ミサゴ(上)	-	ゲンジボタル(特) ミヤマカワトンボ(典) ニシカワトンボ(典)	アユ(移) オオヨシノボリ(移) トウヨシノボリ(移) オイカワ(典) スナヤツメ(特)	カワニナ(特)
	河原	-	コチドリ(特) イカルチドリ(特)	-	-	-	-
	草地	オギ(典)	ハイタカ(上) サシバ	カヤネズミ(典) カジカガエル(典) カスミサンショウウオ (特)	-	-	-
	樹林 (河畔林・竹林)	オオタチヤナギ(典) メダケ(典)	カワセミ(典) ヤマセミ(典)	-	-	-	-
松浦川 中 上 流域 及 び 敷 木 川	水域 (瀬・淵)	ツルヨシ(典)	ヤマセミ(典) カワガラス(典) ミサゴ(上)	-	ゲンジボタル(特) ミヤマカワトンボ(典) ニシカワトンボ(典)	アユ(移) トウヨシノボリ(移) カワムツバ型(典) スナヤツメ(特) アリアケギバチ	カワニナ(特)
	草地	オギ(典)	ハイタカ(上) サシバ	カヤネズミ(典) カジカガエル(典) カスミサンショウウオ (特)	-	-	-
	樹林 (河畔林・竹林)	オオタチヤナギ(典) メダケ(典)	カワセミ(典) ヤマセミ(典)	-	-	-	-

赤字：重要種
上：上位性 典：典型性 移：移動性 特：特殊性

表 2- 5 生態系の観点から注目すべき生物の選定理由

視点	生物分類	種名	選定理由
上位性	鳥類	ハイタカ	冬鳥として平野から山地に飛来し、小型鳥類を主食とする猛禽類。河川水辺の国勢調査での確認数が多い猛禽類であるため。
		ミサゴ	沿岸域や河川のような開放水面に生息する猛禽類。水域では水中の魚類を捕獲する。河川水辺の国勢調査での確認数が多い猛禽類であるため。
典型性	植物	メダケ、ツルヨシ、オギ	水際に生育し、いずれも松浦川水系（直轄区間）の植生面積の約10%を占めるため。
		オオタチャナギ	面積的には少ないが、河畔林としていたるところに生育しているため。
	魚類	オイカワ（松浦川・徳須恵川）、カワムツB型（巖木川）	河川水辺の国勢調査において、河口を除きほとんどの地点で確認され、優占種であるため。
		マハゼ	干潮域の砂・泥底を好むハゼ科の魚類。干潮特有の干潟を代表する魚類と考えられる。
	陸上昆虫類	ハグロトンボ、ミヤマカワトンボ、ニシカワトンボ、ヤマサナエ、コオニヤンマ、コヤマトンボ	トンボ類は幼虫期を水中で過ごし、成虫は陸上昆虫等を捕食し、産卵を水辺で行うため、ほぼすべて水辺と関連がある。このうち、河川環境と密接に関連しており、堤内地と堤外地の環境をまたいで生活している種として左記が考えられる。
	両生類	カジカガエル	清透な溪流に生育する。生活史のほとんどを水中・水際で過ごすため、上流域の溪流環境を代表すると考えられる。
	ほ乳類	カヤネズミ	河川敷に優占するオギなどのイネ科植物の葉上に球状の巣を造る。平成9年度河川水辺の国勢調査では、巖木川を除く全調査地点で確認された。
	鳥類	カワウ	冬鳥として内湾や河川中下流域に渡来する。水域を採餌場所とし、河畔林や低水敷きを休息に利用する。
		カワセミ、ヤマセミ	留鳥であり、カワセミは河川中下流域を中心に、ヤマセミは山間溪流部で生息・繁殖する。河川沿いの土崖で繁殖し、水域で採餌、河畔林や草地等で休息するという河川環境への依存度が高い種である。
		カワガラス	留鳥であり、山間溪流の水域、低水敷で採餌・休息する。滝の裏や岩の隙間のほか、橋の裏や砂防ダムの穴などにも営巣する。
特殊性	魚類	スナヤツメ	清透な、緩やかな流れの流水地や湧水地などに生息し、平瀬や淵尻、水路などの小砂礫底に産卵する。水の汚れに弱く、有機物がたまるような場所では生息できない。
	底生動物	カワニナ	ゲンジボタルやヘイケボタルの餌生物であり、カワニナの生息はホタルの生息ポテンシャルを指標していると考えられる。ホタルに比べ確認がしやすいこともあり、ゲンジボタルに並べて選定した。
	両生類	カスミサンショウウオ	成体は山野地に生息するが、産卵は水域隣接した水域の水路等に行く。そのため、水辺と山野地が近接し、連続的に移動できる勾配である必要がある。それ故、生育環境に限られるため特殊性に列挙した。
	陸上昆虫類	ゲンジボタル	ゲンジボタルの生息には、幼虫の餌となるカワニナの生息が必要であり、さらに、水際が土堤であることと河畔林が存在することが生息条件と考えられている。現在ではこのような条件が揃うことは少ないため、特殊性に列挙した。
	鳥類	コチドリ、イカルチドリ	低水敷の砂礫・礫河原に生息し、採餌・休息・繁殖のすべてに河川敷きを利用する。松浦川水系では、礫河原が少ないため、特殊性に列挙した。
	植物	ハママツナ、シオクグ	汽水の冠水を受ける塩湿地特有の植物であり、松浦川下流のごく一部でしか生育が確認されていない。
移動性	魚類	アユ	川で産卵し、秋に海に降下し、春に遡上してくる回遊性魚。漁獲対象ともなっている。15～30cmの中型サイズである。回遊性であるため移動性に選定した。
		オオヨシノボリ、トウヨシノボリ	全国の河川に広く分布するハゼ科の魚。アユと同じ回遊性魚であるが、遡上時2cm程度の小型サイズである。回遊魚であるため移動性に選定した。

2 - 3 特徴的な河川景観や文化財等

2 - 3 - 1 文化

(1) 名勝および天然記念物

松浦川流域内には、国指定天然記念物 3 物件、市町指定天然記念物 4 物件、国指定特別名勝 1 物件がある。

表 2- 6 松浦川流域の名勝および天然記念物

市町村	指定区分	名称	指定年月日
唐津市	(国)名勝	虹の松原	S30.3.24
	(市)天然記念物	舞鶴公園のフジ	S47.9.1
	(市)天然記念物	洞泉寺のイチョウ	S47.9.1
	(市)天然記念物	舞鶴公園のホルトノキ	S48.11.24
旧巖木町	(町)天然記念物	カヤの木	S53.5.17
山内町	(国)天然記念物	カネコシダ	S2.4.8
	(国)天然記念物	鶺鴒(カササギ)	S12.3.7
武雄市	(国)天然記念物	川古の大楠	T13.12.9

注：巖木町はH17.1.1市町村合併により、唐津市巖木町に名称変更。

【虹の松原】(写真左に松浦川河口)



慶長年間(1956 ~ 1614)、唐津藩主寺沢志摩守広高が防砂防風林として、河岸砂丘に黒松を植林したもの。(幅 400 ~ 500m、長さ 5km、約 100 万本)

松原は、紺碧の松浦湾を縁どって美しい白砂青松の弧を描いており、その形から虹の松原と称されている。三保の松原、天の橋立と並び日本三大松原のひとつである。

(写真：唐津百景,唐津市)

【川古の大楠】

根回り 33m、目通り周囲 21m の巨木で、根部分が地上に隆起して、地上 2m 近くまでは根と幹との境がはっきりしない。幹の南側には空洞があり、その中に稲荷の石祠が祀られている。この空洞付近の幹に像高 240cm 余りの観音像が刻まれていたが、明治初頭の廃仏毀釈の際に削りとられた。そのとき像の頭部から鑄銅性の六手観音小座像が発見されたといわれ、現在この部落に保管されている。幹には観音像の痕跡が残っているが、行基が刻んだものと言われている。



(写真：武雄観光協会 HP)



図 2- 1 名勝および天然記念物位置図

(2) 文化財

松浦川流域内には、国指定文化財 5 物件、県指定文化財 14 物件があり、市町指定物件を加えると多くの文化財が存在する。

表 2- 7 松浦川流域の指定文化財

市町村	指定区分	名称	指定年月日
唐津市	(国)重要文化財	銅鐘(朝鮮鐘)	S25.8.29
	(国)重要文化財	肥前唐津市宇木出土品	S35.6.9
	(国)重要文化財	絹本着色揚柳観音像	S46.6.22
	(国)重要文化財	肥前唐津市桜馬場出土品	S32.2.19
	(国)重要無形民俗文化財	唐津くんちの曳山行事	S55.2.1
	(県)重要有形民俗文化財	唐津曳山	S33.1.23
	(県)重要文化財	宇木鶴崎出土有柄銅剣	S56.3.16
	(県)重要文化財	山田の銅像如来坐像	S59.3.21
旧相知町	(県)重要文化財(彫)	木造如意輪観音坐像	S53.3.20
	(県)重要文化財(彫)	木造薬師如来立像	S58.3.22
	(県)重要文化財(工)	肥前鐘	S36.3.24
旧巖木町	(県)重要文化財(建造物)	肥前鳥居(一基)	S39.5.23
	(県)重要無形民俗文化財	広瀬浮立	S48.4.23
	(県)重要文化財(工芸)	青銅鉢(12個)	S58.3.22
旧北波多村	(県)重要文化財(考古資料)	徳須恵遺跡出土銅鉾	S58.3.22
伊万里市	(県)重要無形民俗文化財	府招浮立	S43.4.23
山内町	(県)重要無形民俗文化財	かんこ踊	S41.4.23
	(県)重要有形民俗文化財	荒踊絵馬	S54.3.31
武雄市	(県)重要無形民俗文化財	真手野の舞浮立	S54.3.31

注：旧相知町・旧巖木町・旧北波多村はH17.1.1市町村合併により唐津市 町に名称変更

【唐津くんちの曳山行事】



文政2年(1819年)、唐津神社に町人たち赤獅子を奉納したのに始まり、毎年11月2日~4日まで催される唐津神社の秋祭り、期間中約20万人(2005年)もの見物客で賑わう。エンヤーエンヤーの掛け声とともに、合計14台の豪華絢爛な曳山が市中を練り回る。曳山で一番古いものは約200年前の作品もある。

(写真：唐津百景,唐津市)

【広瀬浮立】



毎年、八幡神社の例祭がおこなわれる9月15日と、宮地嶽神社例祭である9月23日の両日天山神社境内で奉納されるものである。笛・鼓・大胴・大太鼓の役は、武家風の袷姿。三つの鳥居ごとに立ち止まってそれぞれ曲を奏し、三の鳥居から神前に向かう参道では、「ねじり囃子」という曲を奏しながら、鼓・大胴の役が足袋はだしとなって勇壮な所作を見せる。

(写真：旧巖木町HP)

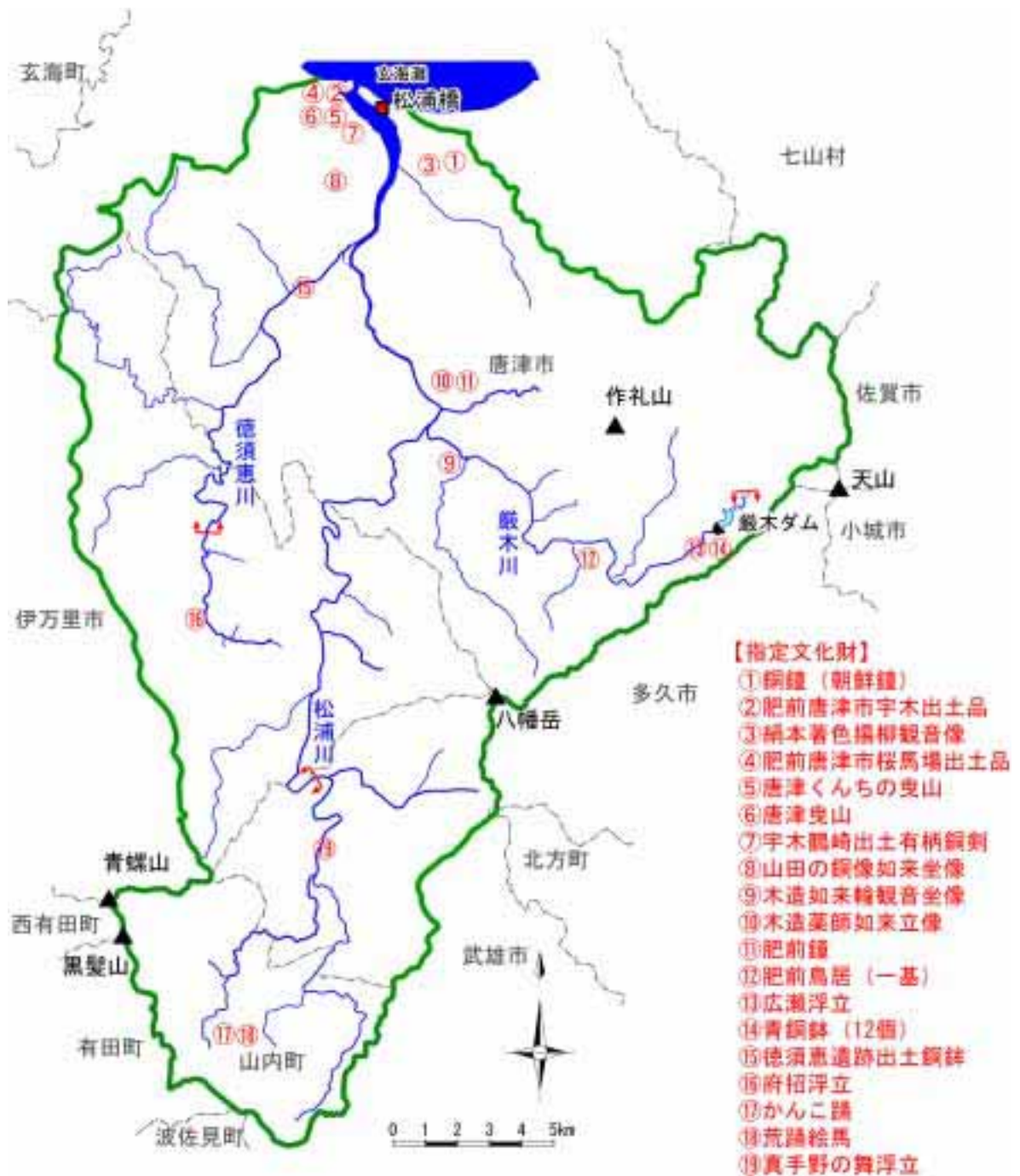


图 2- 2 指定文化財位置图

(3) 史跡

松浦川流域内には、国指定史跡 7 物件、県指定史跡 4 物件、その他市町指定史跡が多数ある。唐津市周辺は、伊万里焼・唐津焼などの陶器が古くから盛んであり、遺跡・古墳のほかに窯跡の史跡指定が数多くみられる。

表 2- 8 松浦川流域の史跡

市町村	指定区分	名称	指定年月日
唐津市	(国)史跡	葉山尻支石墓群	S41.12.19
	(国)史跡	菜畑遺跡	S58.5.11
	(県)史跡	島田塚古墳	S47.3.29
旧相知町	(県)史跡	鶺殿石仏群	S31.3.31
旧北波多村	(県)史跡	岸岳古窯跡	S28.11.3
山内町	(国)史跡	肥前磁器窯跡	S55.3.24
	(県)史跡	筒江窯跡	S56.3.31
武雄市	(国)史跡	肥前陶器窯跡	S15.2.10
	(国)史跡	子峠窯跡	S15.2.10
	(国)史跡	太谷窯跡	S15.2.10
	(国)史跡	鏗谷窯跡	S15.2.10

注：旧相知町・旧北波多村はH17.1.1市町村合併により唐津市 町に名称変更

【岸岳古窯跡】



唐津焼の源流といわれ、日本に初めて朝鮮系の陶器技法が伝承された貴重な遺跡である。古唐津と称される名器は北波多村において創始されたといわれている。

窯は斜面を利用して築かれた登り窯で、この窯の作品は、「叩き手」によって形成された壺などに透明鉄釉を施したもので、美しい青海波文の自然な文様や、飴色の釉薬の窯変発色などに特徴がある。今も唐津焼は伝承され、一楽二萩三唐津と茶人に愛されて、簡素に幽玄の美を今日に伝えている。

(写真：唐津市 HP)

【鶺殿石仏群】



文禄3年に書かれた鶺殿山平等寺略縁起によれば、弘法大師空海が唐にて密教を学び、大同元年(806年)に帰朝、松浦の地に着岸し当地に立ち寄った。そのとき空海はこの地が漢の靈域にも劣らない法地であると言われ、中央に観音、阿弥陀、釈迦の三尊を彫刻されたと記されている。

(写真：相知町ガイドマップ)



图 2- 3 史跡位置図

2 - 3 - 2 歴史

(1) 井堰

松浦川沿川は古くから灌漑が行われ、約 400 年前に築かれた大黒井堰や萩の尾堰が今もその役割を果たしている。

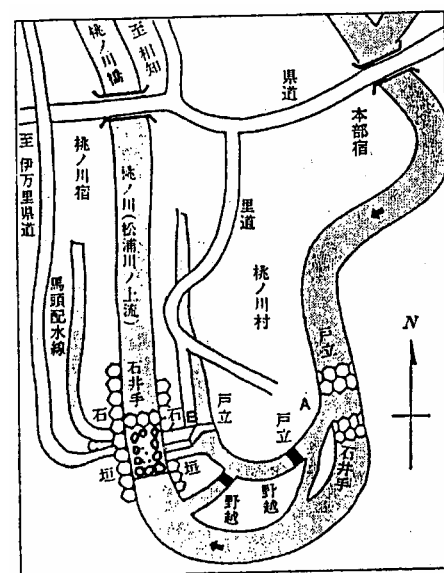
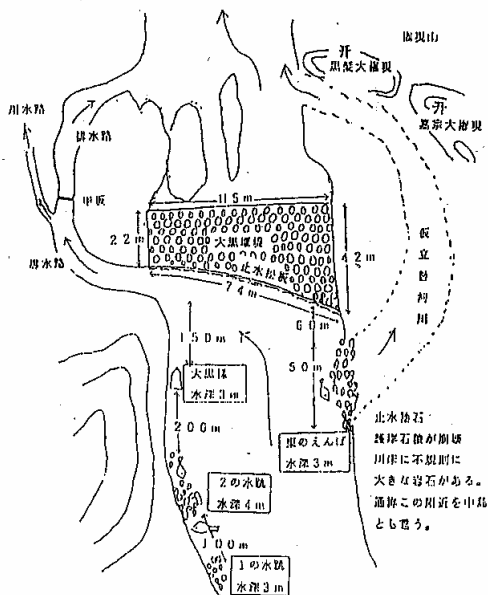
【大黒井堰】

大黒井堰は寺沢志摩守^{てらさわしまのかみ}の指示で工事が始まった。しかし、何年も掛けて積み上げた石が、完成間近に洪水によって流されしまった。そこで、大川野の健福寺の僧侶田代可休が「川中に島を作り水流を二分し、一方に導水口を設置し洪水の害を回避する」と進言し、これにより堰は完成した。

大黒井堰の名は堰の底に大黒天を安置していることから来ている。堰のそばには、寺沢志摩守と田代可休の石碑がある。

【萩の尾堰と馬ノ頭伏せ越し】

足利幕府末期に佐賀藩が始めた桃ノ川地区のかんがい事業は、途中から成富兵庫重安に引き継がれ 60 年の歳月を掛け完成した。馬ノ頭伏せ越しはそのとき作られたもので、幾度の出水で流出し、昭和 3 年に本格的改築が行われ現在に至っている。



【大黒井堰】

出典上段：武雄河川事務所
出典下段：大川町百年史

【馬ノ頭伏せ越し】

出典上段：国土交通省河川局 HP
出典下段：「佐賀平野の水と土」

(2) 舟運

松浦川の舟運利用は、藩政時代から米や石炭などの輸送に利用されていた。松浦川本川21k0付近の駒鳴には集積場(石坂問屋)があり、この辺りまで航行していたと伺われる。

「井手おち」と呼ばれる甲板せきにより貯水し川船を航行していた。また「川除^{かわよけ}」といって、村の石高に応じた川さらいの出来を賦課されていた。などの川船の航行に工夫していた記述がある。(末廬国 編集：松浦史談会)

また明治29年、河口に唐津橋(松浦橋)が架けられるまでは、松浦川河口付近には1本の橋も無く、河口から一番近い橋は、徳須恵川合流付近の「川原橋」のみであった。江戸時代から明治のはじめまで、人々は渡し船を使うか、浅瀬を徒歩で渡って松浦川を往来していた。このため、松浦川から葎木川合流点付近の間に、9つもの渡し場があった。

表 2- 9 松浦川下流旧渡し場一覧

名称	区間	備考
水島の渡し	満島～城下	武士のみ利用可
新掘の渡し	満島～船宮の新掘	庶民の渡し場
大渡し	半田川河口～和多田大土井	
鬼塚渡し	久里の古賀鶴～鬼塚(鬼塚駅)	
筑前渡し	久里の土井～山本の橋本	
下双水の渡し	下双水～山本の向う鶴	
上双水の渡し	上双水～山本の新月寺下	
大野渡し	大野～三反間	
久保の渡し	久保～相知山崎	

【井手おち】

松浦川の上流では、川が浅く、急な瀬もあったので、荷物を積んだ船が通れない場所もあった。そこで、舟場の上流に「井手(堰)」を作って水を溜め、船が下るときに井手をあけて溜めておいた水を流し、その流れに乗って川を下る方法がとられていた。



【M44～45年頃の渡し場の状況】

出典：武雄河川事務所

(3) イダ伝説

松浦川上流域の黒髪山にまつわる伝説で、昔、ここに悪い大蛇が住みつき、様々な害を起こしていた。そこで、天治元年(約900年前)に鎮西八郎為朝という人物がこれを退治したということである。退治された大蛇は松浦川に流れ込み沢山の石斑魚(イダ)になって海に入り、毎年春になると遡って黒髪山に御礼詣をする。そのため松浦川本流以外の川には遡らなかったと言われる。松浦川のことを「イダ川」と書くなど松浦川の季節的川魚で大川野近隣の名物であった。

(末廬国 編集：松浦史談会)

イダは春一番が吹く頃に川を遡ることから、大川野では、春一番のことを「イダ嵐」とも言う。

【ウグイ(イダ)】(コ目コ科)



河川では、上流から河口域までの広い範囲に生息している。主として淵などにすみ、単独または群で動き回るものが多い。季節的には、夏季は表層に、冬季は深みに移る。

(出典：川の生物図典,山海堂)

2 - 3 - 2 イベント・観光

(1) イベント

松浦川流域の市町では、数多くの行事が催されている。なかでも唐津くんちは佐賀県を代表するお祭りの一つであり、豪華絢爛な14台の曳山が市中を練り回る。また、河口部の水面に美しく映し出される九州花火大会は、夏の風物詩として地域に広く定着している。

表 2- 10 松浦川流域市町村の主な年中行事

流域内市町	イベント名称	開催時期	概要
唐津市	九州花火大会	7月下旬	新聞社が市民へのサービスとして昭和28年から始めたものが、伝統行事として毎年行われている。松浦川3k9付近の右岸の唐津市鏡河畔公園運動広場を利用して、多くの人が見物に訪れる。
	虹ノ松原トライアスロン大会	7月	この大会は、唐津の虹の松原や鏡山など素晴らしい自然を全国の方々に知って欲しいとの願いから地元のトライアスロングループを中心に多くの市民の協力を得て2000年から開催し、唐津市の新たなイベントとして期待される。
	鏡商工祭り	10月	「松浦川ブラックバス駆除釣り大会」や「鏡を知る探索ウォーク」などが行われる。
	唐津くんち	11月2～4日	文政2年(1819年)、唐津神社に町人達が赤獅子を奉納したのに始まった秋祭りで、国指定重要文化財にも指定されている豪華絢爛な14台の曳山が唐津市中を練りまわる。
旧相知町	見返りの滝ニジマス釣り大会	春期	割烹組合4軒が主催。ヤマメの放流やたけのこ取り大会も行っている。
	横枕井堰祭り	春期	横枕集落の歴史に触れ、四季を通じて井堰を取り入れたイベントを実施。自然を愛し、故郷を語り合い、集落内のコミュニケーションを図っている。(蔵木川3k付近)
	町切水車・取り付け研修交流	5月	参加者全員で環境美化活動のあと、参加者全員「研修生」となって水車の取り付けを体感し、自然の営みの中で「町切水車」の役割などを研修。また河川、町切堰周辺の環境、散策、歴史探訪会も実施。
	牟田部のいかだ流し大会		河川清掃が目的。パーベキュー、そうめん流しなどを行う。蔵木川山崎橋～田頭橋。
旧蔵木町	アユ祭り	7月下旬	河川美化、水産資源の保護を目的としている祭り。河原でせせらぎの音を聞きながら、炭火焼きのアユ・ヤマメなどを楽しむイベント。(蔵木川11k5付近)
	広瀬浮立	9月末	毎年、八幡神社の例祭がおこなわれる9月15日と、宮地嶽神社例祭である9月23日の両日天山神社境内で奉納されるものである。
	風の里祭り	11月	駅伝大会の実施。
旧北波多村	行合野コイ祭り	5月初旬	5月の第1日曜日開催。場所は徳須恵川中村橋付近で、鯉のぼりをあげたり、コイの放流を行っている。
	北波多環境の日(河童の里イカダレース)	夏期	発泡スチロールによるカヌーレースで、村おこしグループが主催。大杉公民館近くの護岸では、焼き鳥や飲み物バザーなどの出店もあり、楽しい雰囲気の中でレースが開催されている。(徳須恵川4k5付近)
伊万里市	大井手おとし	10月下旬	約400年前に造られた萩ノ尾堰に感謝を込めて近年2年おきに実施。松浦川31k4付近。
	馬ノ頭堰まつり		2年に一度開催。成富兵庫重安を奉るお祭りで、地元主催。
	桃の川フェスタ		2年に一度開催。夏場に河川清掃をおこなう。地元以外からも参加者が募る。

注：旧相知町・旧蔵木町・旧北波多村はH17.1.1市町村合併により唐津市 町に名称変更

【唐津くんち】



(写真：「唐津百景」唐津市)

【九州花火大会】



(写真：「唐津百景」唐津市)



図 2- 4 主なイベント位置図

(2) 観光

松浦川流域の下流部には、玄海国定公園・日本三大松原の一つである虹の松原、中流部には、見返りの滝・日本棚田百選に選ばれている^{わらびの}蕨野の棚田、上流部には、全国第三位の巨樹である川古の大楠など、自然を活かした観光資源が多く存在する。また、唐津城や唐津焼きで有名な窯跡など、歴史的観光施設(史跡)もある。

表 2- 11 松浦川流域市町村の主な観光資源

流域内市町村	観光資源
唐津市	「玄海国定公園」/「虹の松原」/「唐津城」/「唐津曳き山」/「舞鶴公園」/「唐津神社」/「近松寺」/「鏡山」/「東の浜公園」/「東の浜海水浴場」/「鏡神社」/「恵日寺」/「銅鐘」/「宇木汲田遺跡出土品」/「葉山尻支石墓」
伊万里市	「大川内山窯元」
旧相知町	「相知くんち」/「鶴殿石仏群」/「見返りの滝」/「八幡岳県立自然公園」/「芙蓉山医王寺」/「佐里温泉」/「蕨野の棚田」
旧巖木町	「室園神社の肥前鳥居」
旧北波多村	「岸岳城跡」/「旗本百人腹切り場所」/「岸岳古窯跡」/「瑞巖寺」/「岸山法安寺」
山内町	「黒髪山県立自然公園」
武雄市	「備前陶器窯跡」/「小峠窯跡」/「大谷窯跡」/「錆谷窯跡」/「黒牟田焼」/「川古の大楠」/「八幡岳県立自然公園」

注：旧相知町・旧巖木町・旧北波多村はH17.1.1市町村合併により唐津市 町に名称変更

【見返りの滝】



(写真：唐津市観光課パンフレット)

【唐津城】



(写真：唐津百景,唐津市)

【蕨野の棚田】



(写真：相知町ガイドマップ)

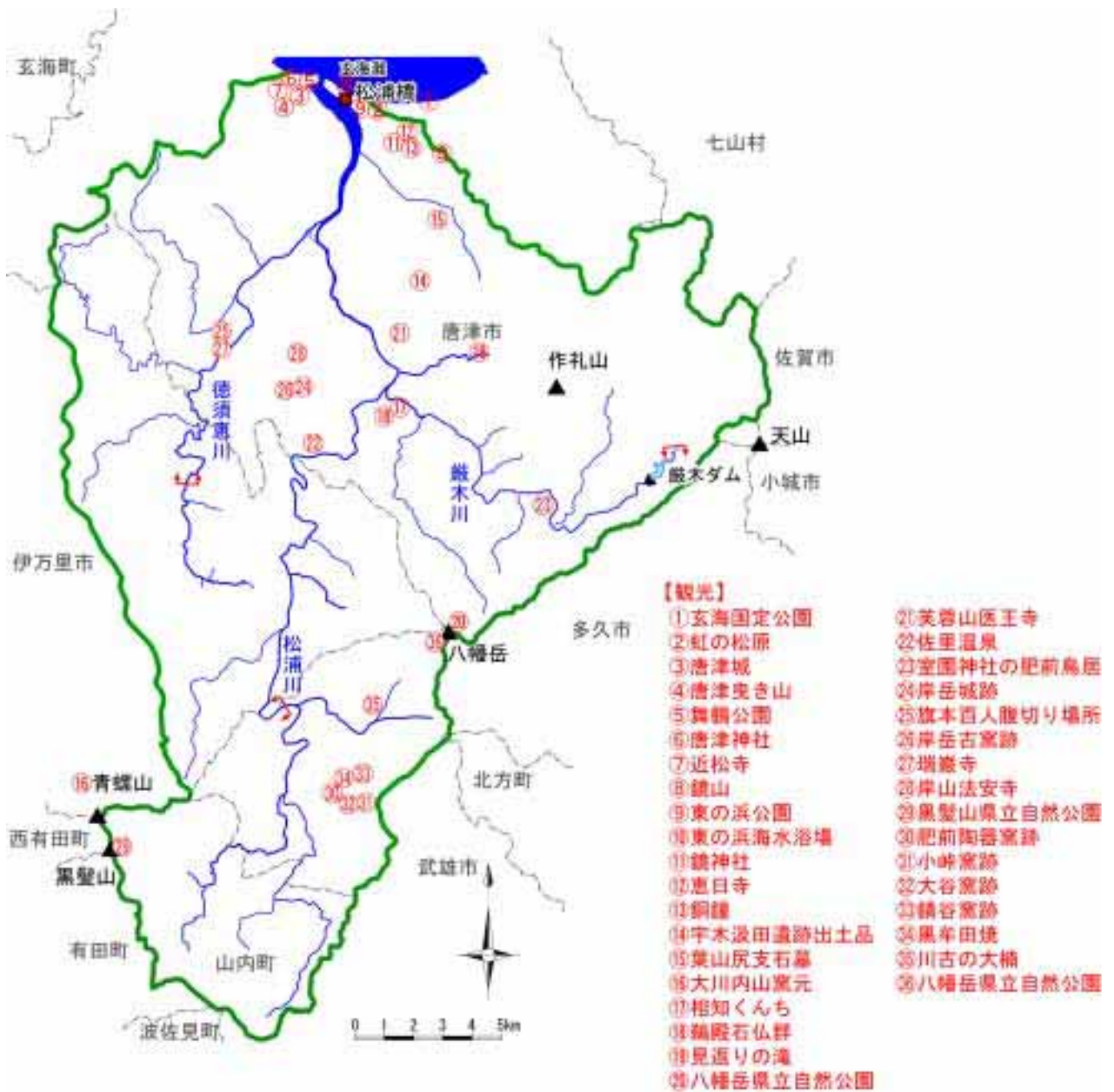


図 2- 5 主な観光資源位置図

2 - 4 自然公園等の指定状況

松浦川流域の自然公園指定状況は、国定公園 1 箇所・県立自然公園 3 箇所の指定を受けている。その他以下のように自然保護関連の指定がされている。

表 2- 12 松浦川流域の自然公園指定状況

名称	面積(ha)	指定年月日	備考
玄海国定公園	14,275	S31.6.1	<ul style="list-style-type: none"> ・九州の北西岸、玄界灘に臨んだ海岸部に広がる一大海洋公園。東は北九州若松区遠見鼻から、西は東松浦半島の西岸部までの海岸部と沿岸部の島々からなる。 ・指定区域は、福岡・佐賀・長崎の3県にまたがっている。 ・園内は、玄武岩の柱状節理が発達した海食洞門や弧状の松原海岸が多く、大陸文化の窓口であったことから文化的遺産も多く点在している。特に、虹の松原(特別名勝)・鏡山・唐津城等は風光明媚な箇所である。
天山 県立自然公園	4,930	S45.10.1	<ul style="list-style-type: none"> ・天山山地の主峰天山と作礼山を中心とした山岳公園。 ・指定区域は、巖木町・相知町・多久市・富士町・小城町にまたがっている。 ・天山は県下では、三番目に高い山で、肥前アルプスと呼ばれる。山頂には天山神社があり、雄大な眺望を有する。また作礼山はハイキング・キャンプの適地で、名勝として知られる見返りの滝がある。
八幡岳 県立自然公園	860	S45.10.1	<ul style="list-style-type: none"> ・武雄市の北端部にそびえる、標高764mの八幡岳を中心とした山岳公園。 ・指定区域は伊万里市・武雄市・巖木町・相知町・多久市にまたがっている。 ・八幡岳は筑紫山地の一峰で、山頂一帯にはススキが多く、池・山小屋があり、相知町にはキャンプ場も開かれている。また山ツツジが群生し、開花期の5月は見頃である。
黒髪 県立自然公園	1,684	S12.7.5	<ul style="list-style-type: none"> ・有田町と山内町の境にそびえる黒髪山を中心とした山岳公園。 ・指定区域は、伊万里市・山内町・西有田町・有田町にまたがっている。 ・黒髪山は「肥前耶馬溪」とも称される景勝地で、自然休養林にも指定されている。

【玄海国定公園（東の浜）】



(写真：唐津百景,唐津市)

【天山県立自然公園】



(写真：旧小城町 HP)

表 2- 13 松浦川流域の鳥獣保護区指定状況

名称	主たる所在地	期間	面積 (ha)
岸岳鳥獣保護区	唐津市	H12.11.1 ~ H22.10.31	24
唐津鳥獣保護区	唐津市	H13.11.1 ~ H23.10.31	575
天山鳥獣保護区	佐賀市・唐津市・多久市・小城市	H15.11.14 ~ H25.10.31	278
稗田鳥獣保護区	唐津市	H15.11.14 ~ H25.10.31	10
八幡岳鳥獣保護区	唐津市	H15.11.14 ~ H25.10.31	75
作礼山鳥獣保護区	唐津市	H16.11.12 ~ H26.10.31	465
黒髪山鳥獣保護区	伊万里市・有田町・西有田町・山内町	H16.11.12 ~ H26.10.31	2,202

表 2- 14 松浦川流域の鳥獣保護区特別保護地区指定状況

名称	主たる所在地	期間	面積 (ha)
黒髪山特別保護地区	山内町	H16.11.12 ~ H26.10.31	56

表 2- 15 松浦川流域で確認された重要な植物群落一覧

件名	所在地
作礼山のアカマツ林	唐津市厳木町、唐津市相知町
作礼山、ジュサイ池の水生植物群落	唐津市厳木町、唐津市相知町
虹の松原のクロマツ林	唐津市東唐津から唐津市浜玉町にかけての海岸線
虹の松原、海岸の砂丘植物群落	唐津市東唐津から唐津市浜玉町にかけての海岸線
八幡岳の自然林	唐津市相知町、武雄市、多久市
舞鶴公園の暖温帯樹林	唐津市東城内
岸岳のツクバネウツギ群落	唐津市北波多、唐津市相知町
黒髪山の岩角地植物群落	西有田町、有田町、山内町
黒髪山のカネコシダ群落	西有田町、有田町、山内町
黒髪山のアカマツ林	西有田町、有田町、山内町

出典：佐賀県自然環境情報図(第3回自然環境保全基礎調査),平成元年環境庁



图 2- 6 自然公園、特定植物群落位置図